

## 千葉県立中央博物館

### おはまおり—海へ向かう神々の祭—

開催期間：令和4年10月22日（土）～令和5年1月9日（月祝）



#### 【企画展の内容・目的】

- 千葉県には神輿が海や水辺に向かう多くの祭りがあり、「おはまおり」のほか「しおふみ」「おはまで」などと呼ばれている。安産・子育て、豊漁豊作、疫病退散などの願いを込めて行われてきた祭りは、海とともに生きてきた人々の暮らしや文化を象徴している。本展示では、「おはまおり」の歴史や意義、魅力を紹介し、海とともにある伝統文化を再認識するとともに、海と共生する暮らしの大切さを考える機会とした。
- 展示だけでは伝えられない、祭礼の現場の状況や当事者の思いを伝えるため、セミナーを開催し、また担当学芸員による展示解説を行った。
- 特に子どもたちが房総の海に親しみ、地域の海と祭りを自分事として考え、将来、海と共生した地域文化の担い手となることを目標として、ワークシートを配布し、また塗り絵、折り紙、すごろくを楽しめる体験コーナーを常時設置した。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はいけません。

# 1. 企画展示の内容

- 開催期間：令和4年10月22日（土）～令和5年1月9日（月祝）
- 開催場所：千葉県立中央博物館 第一・第二企画展示室ほか
- 入場者数：10,502人



千葉県立中央博物館 外観



企画展会場 入口

メイン会場 第一企画展示室・第二企画展示室

## ●プロローグ 水に囲まれた房総と神輿祭礼



古代・近世・現代の房総の地図と平安時代の「年中行事絵巻」により、海と内海とに囲まれた房総の地理的な特徴と、房総で発展したおはまおりを伴う祭礼について、その概要を示すとともに、おはまおりが海に囲まれた房総に特徴的な祭りであることを紹介した。



## ●第1章 海に現れる神々の物語



四国阿波から房総に来住し開拓を行ったとされる忌部一族や、海の女神 玉依姫などの、海を舞台に繰り広げられる神話や伝承と、それを再現するように行われる神輿祭礼を紹介した。

海を介して房総に新しい文化が伝えられてきた歴史や、海を豊穡の源と考え畏敬の念を抱いてきた先人たちの思いなどを説明した。

## ●第2章 武神と海の信仰



香取・鹿島神宮の神幸祭は、両社の神が水上で12年に一度出会う祭礼であり、古代の蝦夷征討軍あるいは三韓征伐に赴く神功皇后の船団を再現したものといわれている。しかしまた、香取神の来着と神の船の奉納などの伝承もある。また千葉氏は領国の守護神として妙見菩薩を信仰し、結城浜に妙見菩薩が出現したとの伝承に基づき、おはまおりを行っていた。時の権力者により領国の安寧の意義により行われた祭礼がおはまおりを伴っていること、またその背後に、神の出現の地が海岸であるとの観念や、海に豊穡を願う心意が認められること、そして、その祭礼が次第に民衆のまつりに変化した様子などを紹介した。

### ●第3章 民衆の海への祈り



海は豊穡の源であり、不漁の際に神社から神輿を盗み出し、海に入れて担ぐとマンナオシになる（豊漁が訪れる）という信仰がある。おはまおりの祭礼の祈願内容は第一に、「岡万作・浜大漁」である。

また、祇園祭は平安時代の京都御霊会にはじまるとされるが、房総では五穀豊穡・疫病退散を願う夏祭りとして、都市部のほか農村部でも盛んに行われ、川や沼など内水に神輿を入れることをおはまおりと呼んできた。

各地の豊穡祈願のまつりと祇園祭礼を紹介した。

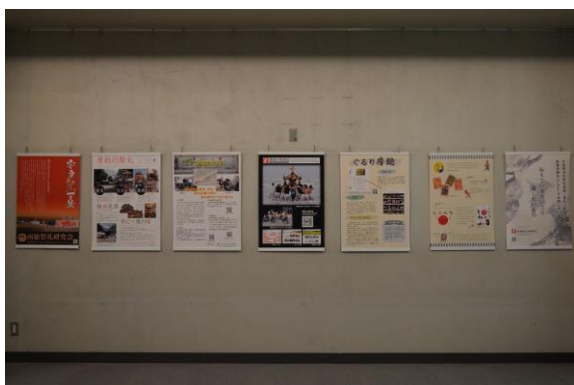
### ●第4章 泥の祭り



春の農耕が開始される前に行われる泥にまみれる祭りには、泥の持つ生命力にあやかり、また、新婚の嫁婿を村全体で祝福し、五穀豊穡と子孫繁栄を祈る心意を見ることができる。おはまおりの特異な形として行われている泥のまつりを紹介し、我々が、自然の生命の循環のなかに生きる存在であることを再認識できるように説明した。



### ●トピックス 房総の海のまつり応援団



祭りや民俗芸能を応援している方々や団体を、パネルで紹介した。

### ●トピックス 房総の神輿と神輿師



房州型の神輿と、それを手掛ける職人をパネルで紹介した。

### ●映像放映



光庭で文化庁が平成22年に製作した「房総のおはま降り習俗（記録編）」を上映した。また、展示室内においても4台のモニターを使い、7点の祭礼映像を上映した。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はいけません。

## 2. 関連事業の内容

### ■海とおみこしの塗り絵を楽しむ

【開催日時】令和4年10月22日（土）～令和5年1月9日（月祝）  
09:00～16:30

【開催場所】千葉県立中央博物館 2階ホール

【参加者数】のべ2,719人

【実施内容・目的】

- 子どもたちが海のまつりに親しみ、展示資料をよく観察して海のまつりへの関心を高めることを目標に、展示資料に関連する塗り絵、折り紙、すごろくを楽しめる体験コーナーを設けた。



体験コーナーでは、畳敷きの「お座敷」を作り、子供たちが自由に楽しめる雰囲気づくりを行った。塗り絵は、妙見神像、神馬、四神などを用意した。塗り絵をすることで、展示資料のこまかいところに気が付き、企画展内の実物の資料で確認することにより、海の祭りに関係する「もの」をよく知り、海の祭りへの関心が高まるように促した。また、折り紙では、祭りに着用するはっぴを折り、背紋の位置に、神輿のシールをはることによって、祭りを自分事として考える機会とした。すごろくは、展示で紹介した祭りの場所を地図に示したもので、実際の祭りを見に行きたいと思う動機付けとなることを期待した。

### 【来館者の声】

- 体験コーナーの設置はとてもよかった。ぬりえから、子どもたちが海の祭りに興味を持った。おはまおりを見に行きたいと思う。
- 海がもっと好きになった。海をよごしちゃあかん。

## ■担当学芸員による展示解説

【開催日時】令和4年10月22日（土）、11月5日（土）、19日（土）、23日（水）、12月3日（土）、11日（日）、17日（土）、25日（日）、令和5年1月7日（土）、9日（月）

【開催場所】千葉県立中央博物館 第一・第二展示室

【参加者数】171人

【実施内容・目的】

- 展示資料とパネルだけでは伝えられない、祭礼の意義や現地の状況、当事者の方々の思いなどを、トリビア的な情報を織り交ぜながらわかりやすく解説した。
- 海の祭りへの興味関心を高めることで、海と、海とともにある伝統文化を守り継承しようとする気持ちを持っていただくことを目的とした。



海に囲まれた房総で、海とのかかわりの歴史のなかで、海に豊穡を願う祭りが行われてきたことを、具体的な資料や写真に即して説明を行うことで、房総の祭りが、豊かな海を背景に行われてきたこと、海と共生した文化であることを伝えることができた。

## 【来館者の声】

- 説明者の説明が聞きやすい。よく調査されていて、わかりやすかった。千葉の信仰と海の関係が興味深かった。
- オープニングセレモニーで担当者が説明してくれた内容を来場者全員に聞かせたい。ポイントや隠れた発見を端的に聞けて、とてもおもしろかった。



## ■おはまおりセミナー2022

【開催日時】令和4年11月6日（日）

【開催場所】千葉県立中央博物館 講堂

【参加者数】67人

【実施内容・目的】

### 第一部 講演

「白間津オオマチは浜降りの祭りなのか」俵木悟氏（成城大学文芸学部）

「常陸国金砂大小祭礼について」石井聖子氏（特定非営利活動法人美和の森）

「和歌山県沿岸部の祭礼とお浜降り」蘇理剛志氏（和歌山県立紀伊風土記の丘）

### 第二部 パネルディスカッション「これからの海の祭り」

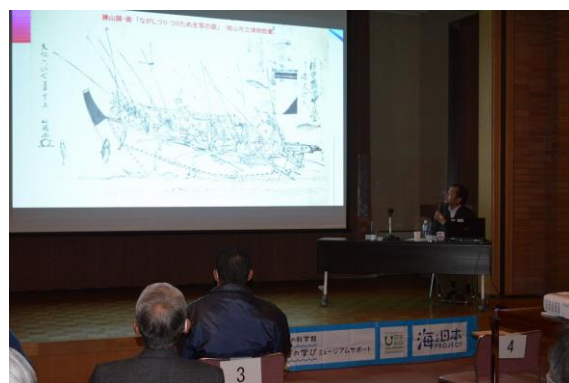
浅野一夫氏（いすみ市大原貝須賀区長）

鈴木年樹氏（寒川神社氏子青年会）

吉野正記氏（鵜羽神社若衆頭）

小岩秀太郎氏（進行役：縦糸横糸合同会社代表）

- 第一部では、おはまおりの祭礼に関わってきた研究者や文化財行政担当者を招き、おはまおりの祭礼に内在する歴史や文化の豊かさを知るシンポジウムを開催した。第二部では、海岸に出て祭りを行っている当事者が、祭りの継続にどのような意を尽くしているか、海にどのような思いをもって祭りを行っているか、その肉声を多くの人に届けるため、パネルディスカッションを行った。



※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等ではできません。

当館では過年度に2回、おはまおりについて深く知るためのセミナーを実施し、千葉県内のおはまおりの特色を紹介してきたが、今年度は特に県外の事例と比較して、千葉県のおはまおりを、より広い視点から相対的に理解することを目的とした。

また、パネルディスカッションは、海の祭りの当事者の声を、祭礼を応援したいと考えている人たちや、さらに広く一般県民に伝え、また、祭礼当事者同士のネットワークを作ることが目的として行った。

おはまおりの伝承が困難になっている状況のもと、人々のつながりが継承を支える力になることをめざすものであり、一定の成果があった。また、海と信仰、祭礼とのかかわりについて多くの方に考えていただく契機となった。

### 【来館者の声】

- 日本人の文化・生活と「海」とのつながりを、おはまおりという一面で知ったこと。「海」と「大地」と「人」との関係性を、広く深く考察することが大切であろう。
- 海にまつわる祭礼を通して、海を神聖に重んじる文化が見えた。
- 神事において海が清めの役割を持っているということ。清めの役割をもつ海だからこそ、美しく保って、次世代につなげないといけないと思う。

## 【事業全体のまとめ】

今回、「海の学びミュージアムサポート」からご支援いただいたことにより、県内 20 の祭礼を、数々の御神宝や祭礼用具などにより紹介することができた。資料借用先は 40 カ所に及んだ。なかでも神輿 3 基の反響は大きく、「おまつりを自分の目でみたくなった」など、海の祭りへの関心につなげることができた。

本展では「おはまおり」という祭事を紹介したが、「おはまおりの全体像が一望にしてみえた」「海に囲まれた千葉ならではの多様な文化に驚いたし誇りにも思う。」など、海に育まれた房総の歴史や文化の重要性の再認識につながり、また、「今後も守り伝えてほしい」「見学に行きたい。また、ボランティア等で参加できればやってみたい」など、今後、海とともにある伝統文化を守り継承し、さらに房総ならではの海に着目した地域振興の一翼を担う取り組みへの契機となった。

また、セミナーにおいて県外からシンポジウムの講演者を招いたことが「とてもよかった」「三者三様の講演が大きな学びになった」と好評であった。祭礼当事者の方々をパネラーに招いたこと、「海のまつり応援団」のコーナーで、祭りや民俗芸能を応援する方々や団体のポスターを展示したことなども相俟って、今後海のまつりの継承を支えるネットワーク構築につなげることができた。

## 3. 主な連携・協力先について

連携・協力先名称	連携・協力の内容
1. 大原幽学記念館	展示の同時開催
2. 千葉県神社庁	調査への協力、広報
3. 各神社・寺院・氏子団体	調査協力、資料貸借、広報
4. 市町村教育委員会・博物館・資料館	調査協力、資料貸借、広報
5. 祭礼愛好者・応援者	ポスター作製

## 4. 主な広報結果について

掲載媒体名	見出し、掲載日
1. 大衆日報	「おはまおり～海へ向かう神々の祭～」22 日から千葉県立中央博物館で開催 令和 4 年 10 月 9 日
2. 房日新聞	「おはまおり」の魅力に迫る 秋の展示 安房含め祭礼資料 110 点 県中央博物館 令和 4 年 10 月 30 日
3. ちば民報	「おはまおり」を考える 海へ向かう神々の祭り 県立中央博物館企画展示から 令和 4 年 11 月 13 日
4. 千葉日報	浜辺を馬が駆ける 神輿を海に投げる 千葉特有「お浜降り」に焦点 県中央博 多彩な形態と魅力紹介 令和 4 年 12 月 9 日
5. 神社新報	「おはまおり」の歴史などを紹介 県立中央博物館 令和 4 年 12 月 12 日
6. 東京新聞	令和 4 年度秋の展示「おはまおり～海へ向かう神々の祭」 令和 4 年 12 月 25 日

以上